

「技術を学んで地元還元」

玉川 博将 (35歳) Uターン
(大洲市)



1 就農の動機・理由

大洲市長浜町の実家がもともとかんきつ主体の農家で、祖父と父が従事していた。高校生の頃、祖父が体力的に難しくなってきたため手伝いを始め、農業大学校へ進学した。その後、農業関係の職に就いて経験を積み、実家の手伝いを経て、独立就農に至った。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (平成27年)	現在の経営 (令和5年)	将来の経営 (令和8年)
労働力	男2人 女1人 (本人、父、母)	男1人 女2人 (本人、妻、母)	男1人 女2人 (本人、妻、母)
経営耕地	樹園地 101a	樹園地 221a	樹園地 221a
経営内容	極早生温州 14a	極早生温州 40a	極早生温州 40a
	普通温州 14a	早生温州 30a	早生温州 30a
	伊予柑 27a	中生温州 50a	中生温州 50a
	甘平 7a	普通温州 14a	普通温州 14a
	せとか 2a	甘平 7a	甘平 7a
	ひめのつき 37a	不知火 20a	不知火 20a
		キウイフルーツ 60a	キウイフルーツ 60a

○農業用施設

農業用倉庫 2棟
果樹棚 60a
モノレール 1台

○主要農業機械

動力噴霧器 2台
運搬車 1台
選果機 1台
軽トラック 2台
1tトラック 1台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県大洲市

職歴 愛媛県立農業大学校実習助手
果樹研究センター勤務

就農研修歴

愛媛県立農業大学校

(H18.4.1~H20.3.31)

就農年月 平成27年10月

(2) 就農時の思い

当時は温州みかんやキウイフルーツの単価が低かったため、このままでは生業として成り立たせるのが難しいかもしれないと感じていた。それと同時に、自分の家の農地を守るという使命感のようなものも感じていた。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

農業大学校での2年間の研修や、その後の農業大学校及び果樹研究センターでの助手としての勤務により、教員や研究職の方々から習得した。

(2) 資金の準備

研修については「次代を担う若い農林漁業就業促進事業費補助金」、就農後は「青年就農給付金」を活用した。市や県に相談しながら手続きを進めた。

(3) 農地・住宅の確保

就農時は親の経営を一部継承したため、農地や住宅はもともとあった。今は当時引き継がなかった農地等も含めて全部継承している。

(4) その他苦労したこと

特になが強いて言えば、急斜面での草刈り等の作業には慣れておらず、苦戦した。

5 農業経営の特徴

温州みかんについてはマルチを敷くことで品質や糖度を上げている。また、極早生・早生・中生・普通と品種を分けることで、労働力を分散させている。

親からの継承のため、農地や施設等がすべて自己所有であることも特徴の一つ。

6 これからの夢

現在はすべて露地栽培だが、将来的には農地を集約し、施設を建てて高単価のかんきつ生産に取り組みたい。

また、今はほとんどがJAの共販だが、直販にも興味がある。自分の生産物として消費者に届けることができるのが魅力で、少しずつ準備を進めている。

7 成功したキーポイント

代々築いてきた生産基盤があったことと、専門機関でとことん知識や技術を積んできたことが大きかったのではないかと。

また、青年農業者組織に加入し、同年代とのつながりができたことも良かった。

8 就農を目指す方へのアドバイス

農業は自分のやりたいようにできるので、縛られるのがいやな人にはうってつけの職業ですが、すべてが自己責任なので、計画性ややる気が欠かせません。それでも挑戦したいならぜひともこの業界に飛び込んでください。

○ 指導機関からのひとこと

代々受け継がれてきた園地と、専門機関でしっかりと磨かれた栽培技術によって、玉川さんの作る温州みかんはおいしいと評判になっています。海とかんきつ畑が織りなす景色が美しい長浜町今坊地域の大切な担い手として、これからもご活躍されるよう応援しています。

執筆機関

南予地方局農林水産振興部八幡浜支局地域農業育成室
大洲農業指導班

電話番号 0893-24-4125



キウイフルーツのせん定作業